

令和4年度
学校関係者評価委員会の評価結果

秋田リハビリテーション学院

I 学校関係者評価委員会 委員名簿

委員長 宮下正弘
秋田赤十字病院 名誉院長
介護老人保健施設 山盛苑 施設長
委員 安藤秀明
秋田大学大学院医学系研究科 保健学専攻長
委員 菅原慶勇
公益社団法人 秋田県理学療法士会 会長
市立総合病院 リハビリテーション科
委員 佐野元彦
(株)サノ・ファーマシー 代表取締役

II 総合評価

秋田リハビリテーション学院は、平成27年4月に4年制課程の理学療法士養成校として開校した。以来、豊かな教養及び高度な専門知識と技術を身に付け、知的・倫理的な行動、判断及びコミュニケーションの能力を発揮して、保健医療福祉分野において持続的で健康的な文化の進展に寄与し、地域社会に貢献できる人材の育成を教育理念としてきた。この理念に基づき人間性豊かで高い倫理観を持ち、保健・医療・福祉分野、特に地域及び在宅医療の場において対象者の立場に立って責任のある適切な理学療法を実践できる人材育成を目標に努め、令和5年3月には5期生33人が卒業、理学療法士として国家資格を得た学生30人を社会に輩出することができた。

Ⅲ 主な評価は次のとおりである。

1、教育課程・成績評価

1 教育課程編成

基礎教育においては大学関係で活躍している教員を中心に、また専門基礎教育に関しては基礎医学、臨床医学のそれぞれ専門家に非常勤講師として講義を依頼する等、全人的教育及び理学療法士としての医療人教育が円滑に提供できており、ある程度評価できる。

2 成績評価

成績評価は、その基準を学則に示し、筆記試験、レポート、実地試験、論文のいずれかまたは複合的な成績判定方法によって、その結果と学習態度を基に総合的かつ厳正に合否を判定している点や、卒業認定については卒業試験を実施し、積み重ねてきた知識技術の理解・消化が十分であったかどうかを 2020 年度から f-GPA を活用し、より詳細に判断でき、卒業認定を実施していることは、適正な評価がなされていると判断できるが、評価のあり方について予めシラバス等での学生への説明や卒業認定に至らなかった学生とは十分に話し合い、保護者との面談も実施した上で相互の理解を得られるよう配慮しているのは評価できる。

令和 4 年度は 4 年生全員が卒業

3 トリプルサポート制の導入

「理学療法スキル」において、1～3 年次が同じ時間、同じ場所で受講することによって、先輩、後輩の関係を強くし、学生同士が教え合い、学び合うことができ、このことは授業時間外においても、同級生同士や先輩・後輩間での復習等で自主的セミナー形式の勉強会をする光景が見られるなど、実質的で効果のある取り組みと認められる。

4 放送大学とのダブルスクール制度の導入

放送大学は、当学院で取得した単位のうち 60 単位を放送大学の単位として読み替え可能としていることから、卒業要件 124 単位のうち 64 単位を放送大学で取得すれば学士（教養）を取得できる。V 期生では 3 人が放送大学を卒業し学士（教養）を取得した。放送大学との連携教育による学習の成果向上への取組みに期待する。

目標：放送大学卒業生の増加

2、教育体制

1 教員組織

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則（第2条第一項四号）では、学生定員数40人に対して専任教員7人（有資格専任教員6人及び有資格者以外の教員1人で可）を必要と定められているが、本学院では教育資質向上のためにも7人の有資格専任教員及び他1人の教員を配して総数8人の専任教員構成として充実した教育の提供を目指している。

こうした中、2023年8月からは専任教員が増員されることとなっており、総数8人の専任教員構成が見込まれる。

このような教育の資質向上を目指した取り組みは評価できると同時に、このことに止まらずさらなる努力を期待する。

目標：資格専任教員8人体制を目指す

2 事務職員組織

事務長、事務長補佐、経理課長兼総務課長を置き、他に広報も兼務する総務課員、教務部職員、派遣、嘱託職員の7人を配して業務を遂行している。

目標：職員の資質向上を図る

3 設備・機器道具

指定規則別表で定められた設備・機器道具は、基礎医学実習室、水治療室、装具室、機能訓練室に適切に配置し、図書室は参考書・ジャーナル・辞典類など1,000冊余を揃えて書架に収められているほか、大型テーブル6台、本貸借用PC1台、コピー機1台を配置している。

これらは、それぞれの授業、演習、学内実習において、最大限活用されているほか、図書においては毎年、時代の流れに沿った参考書を必要に応じて購入、追加している。また、電子図書（冊数）も同時に業者と契約、随時閲覧できるようにネット設備の充実を図り、整備されている。

3、学生支援

1 募集

本学院が求める学生像に沿って、色々な募集様式による入学試験を実施して募集している。

概ね、求める学生像に近い学生が入学しているが、中には精神的ストレスを感じやすい者や本人の意思での選択ではなかった学生も若干名いたり、進路変更を理由に退学していることを考えると、募集様式の工夫・改善に加え、入学後の教員による学生への支援の在り方等検討を進める必要がある。

2 広報

本学院教員による高校への出張講座、高校でのガイダンス、オープンキャンパスの開催により、当学院の役割、教育内容等の提供や理学療法士の職種に関する内容、魅力等を解説した他、公開講座では理学療法に関する情報、理学療法士の役割を紹介していることは、本学院の求める学生像を高校生に周知することに有効であるという点で評価できる。

また、本学院の特徴、教育内容、学生生活・学習場面の画像、教員像等は高校生に分かり易い内容となっている。

3 入学定員

1 学年 40 人の定員に対し、充足率 100% に向け募集活動を展開、Ⅲ・Ⅳ期生で 100% を下回ったものの、Ⅴ期生以降では 100% 超を維持しており、評価できる。

4 健康管理体制

4 月の健康診断や学校医の委嘱のほか、実習参加学生については各種感染症に対する抗体検査を実施している。

5 就職支援

求人情報は常時閲覧可能としている他、模擬面接試験を希望する学生に対しては随時対応し、令和 4 年度までの理学療法士資格取得者の就職率は 100% であった。

また、Ⅱ期生以降は県外より県内就職者の割合が平均で 61% と県外を上回っているが、今後も県内就職率の増加に努めるためにも県内医療施設への働きかけ強化を継続する必要がある。

IV 項目別評価結果

【評価の標語】

- S : 大いに評価できる
- A : 評価できる
- B : 努力を要する
- C : 改善を要する

I 教育に関する目標

1 教育課程編成	A
2 成績評価	A
3 トリプルサポート制の導入	S
4 放送大学とのダブルスクール制度の導入	A

II 教育体制

1 教員組織	A
2 事務職員組織	A
3 設備・機器道具	A

III 学生への支援

1 募集	A
2 広報	A
3 入学定員	A
4 健康管理体制	A
5 就職支援	A